



BELOW WATER

OLIVER LUCANUS — Photo & Text

オリバー・ルカヌスが贈る水中世界 Vol.8

泉

ブラジル、トリステ川にあるカルスト石灰岩の泉から湧く澄んだ水。この小川の源流には魚がほとんどおらず、唯一ここに生息する固有種であるアスティアナックスの仲間が、苔や木の根、そして岩盤の狭い割れ目から吹き出した細かい砂によってつくられる壮観な水景を泳いでいる。

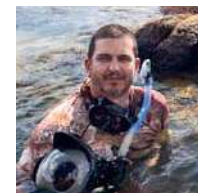
〔撮影地〕
ブラジル トリステ川 原流域

〔生物〕
Astyanax nobre

OLIVER LUCANUS

オリバー・ルカヌス (54)

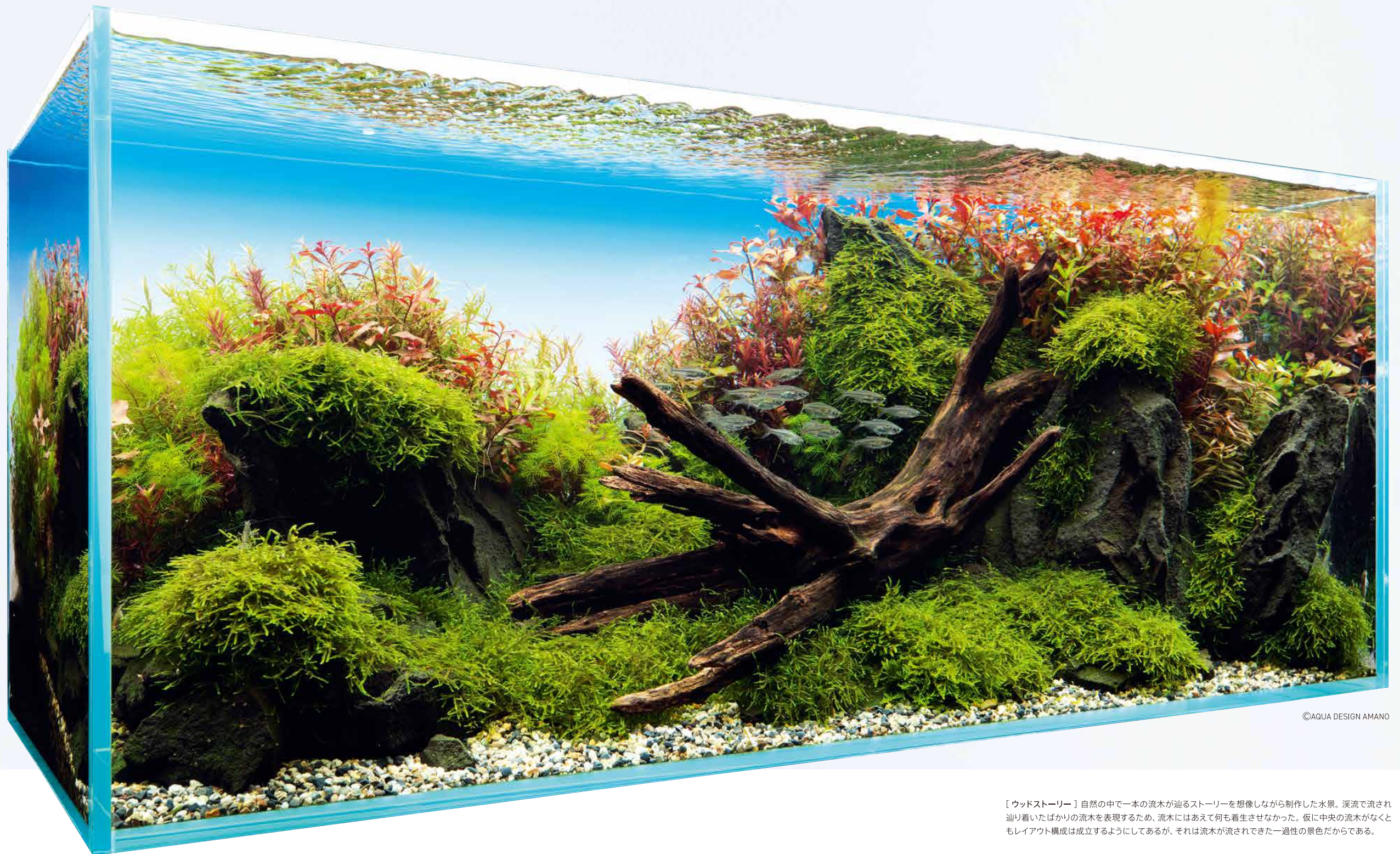
ドイツ、バイエルン州生まれ。30年以上に渡り、世界中で魚の棲息環境を撮影し続けている。[Xingu Below Water] など写真集を発刊。カナダ、モントリオール在住。IEPA会員。



CREATOR WORKS

Naru Uchida

NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)



©AQUA DESIGN AMANO

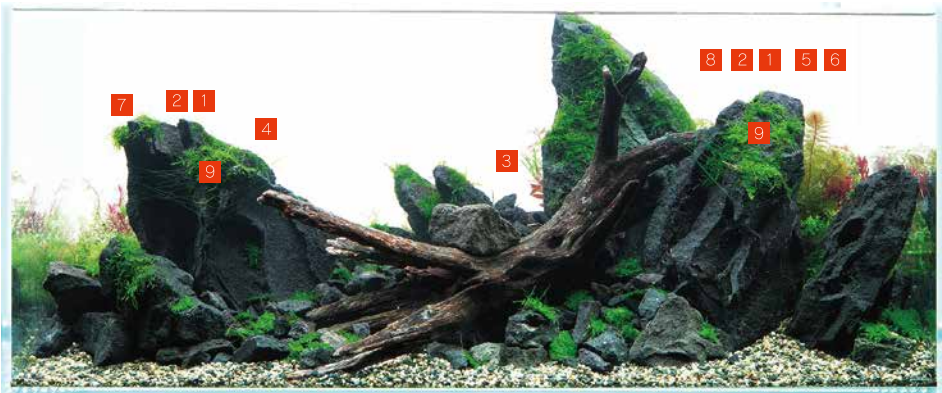
〔ウッドストーリー〕 自然の中で一本の流木が迎えるストーリーを想像しながら制作した水景。渓流で流され
辿り着いたばかりの流木を表現するため、流木にはあえて何も着生させなかった。仮に中央の流木がなくともレイアウト構成は成立するようにしてあるが、それは流木が流されできた一過性の景色だからである。



CREATOR WORKS

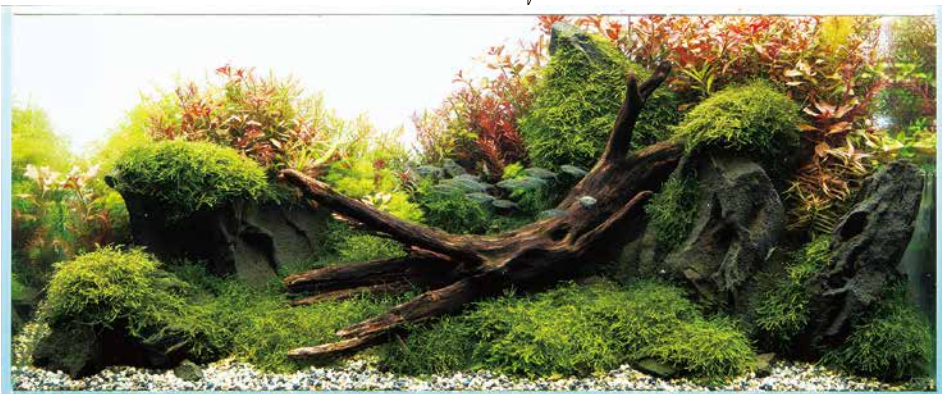
Naru Uchida
NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)

植栽



2022年10月14日撮影

完成



2023年3月16日撮影

TITLE ウッドストーリー

D A T A

制作日 2022年10月14日
撮影日 2023年3月16日
制 作 内田 成 (ADA SUIKEI CREATOR)
水 槽 キューブガーデン W1,200×D500×H500 (mm)
照 明 ソーラーRGB ×2 (1日8時間30分点灯)
ろ 過 スーパージェットフィルター ES-1200 (パイオリオG)
材 山石、ホーンウッド、アクアグラベル
底 床 アクアソイル・アマゾン Ver.2、パワーサンド・アドバンスM、
バクター100、クリアスーパ、トルマリンBC

C O 2 バレングラス・ビートル 400、CO₂ビートルカウンターで
1秒に5滴 (タワ-使用)
A I R リリィパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤 ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、
グリーンブライティ・アイアン、グリーンブライティ・ニトロ
換 水 1週間に1度 1/3
水 質 水温25℃ pH:6.4 TH:50mg/L

水 草 ① ルドウィジア・グランデュローサ
② ルドウィジア・レペンス
③ ニードルリーフルドウィジア (BIO) ※
④ セイロンロタラ (BIO) ※
⑤ ロターラ・福建省 (BIO) ※
⑥ ロターラsp. フラワー
⑦ ミリオフィラム・マトグロッセンセ (BIO) ※
⑧ ロターラ sp. レディッシュ
⑨ ウィローモス (モスバッグ) ※
Ludwigia glandulosa
Ludwigia repens
Ludwigia arcuata
Rotala rotundifolia 'Ceylon'
Rotala rotundifolia 'Fujian'
Rotala sp. 'Flower'
Myriophyllum mattogrossense
Rotala sp. 'Reddish'
Taxiphyllum barbieri

魚 種 グラスバルブ
サイヤミーズフライングフォックス
オトシナクルス
ヤマトヌマエビ
Parachela oxygastroides
Crossocheilus oblongus
Otocinclus sp.
Caridina multidentata

©AQUA DESIGN AMANO
※はADA生体製品ラインナップです。

SUIKEI CREATOR INTERVIEW

内田 成 Naru Uchida

CREATOR WORKS

Naru Uchida
NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)

一本の流木が辿る物語を表現

—— まずは水景の制作コンセプトを教えてください。

簡単に言うと、流木の物語を表現しました。中央にある一本の流木が主役というか、ここではレイアウトの骨格ではなく、表現要素の一つとなっています。今までのネイチャーアクアリウムの手法では、流木に苔やシダを活着させて時間の経過や自然感を演出してきましたが、今回私が制作した作品ではあえて流木には何も着生させませんでした。それとは対照的に周りの山水石にはウィローモスなどをたくさん活着させました。

—— それはなぜでしょうか。

渓流域などで流され、転がる流木片の様子を表現したかったからです。この作品での流木はそこに留まって苔やシダが生えるのではなく、ここに留まってはいるんです。今、この瞬間だけの光景で、また別な場所に流されていく、というような小さな情景を表現したかったんです。ある流木片の過去、現在、未来の時間軸を想像させるようなレイアウト表現を試みたつもりです。だからこの一本の流木を手にしたとき、自分なりにこの流木の物語をワクワクしながら考えました。レイアウト作業の一番楽しい時間ですよ。

—— なるほど。留まる流木の光景ではないんですね。

そうですね。ある意味、刹那な光景であり、

時間を重ねたような表現ではありません。侘び寂びとはちょっと違う感覚かもしれないですね。侘び寂びって時間の経過によって醸し出される趣などを指しますが、ここでは刹那さです。どちらも日本的な感覚ですが、ネイチャーアクアリウムの表現においても大切にしたい感覚だと思っています。私はよくカメラ片手に溪流などに出掛けているんですが、嵐の前後は景観が変わってたりすることがあります。そんなときに留まることのない自然の流れというか時間軸を感じますね。景観を構成している石や流木も動いているという感覚を覚えたことが自分自身で面白かったですね。

—— では具体的なレイアウト制作についてお聞きしますが、流木の選択については何かポイントはありましたか。

存在感ですね。大きさ、太さ、形、肌感、重量感など、今私が説明したコンセプトを体現するような流木を探しました。その結果、この

ホーンウッドになったわけですが、形も個性的ですごく惹かれました。コイツなら主役が張れるなって直感的に思いました。素材の選び方からすれば、石組レイアウトの親石選びに似たような感覚でした。

—— 水草の植栽についてはいかがでしょうか。

今回は流木のシルエットをしっかりと残したかったため、あえて活着性水草が中心となる中水草は使いませんでした。水草は有茎草とウィローモスでシンプルな構成にしています。有茎草の下茎部は山水石で隠れるようにしてあり、私の得意なカラーリングでもある紅葉のように見える有茎草の混栽を取り入れています。そのためL.グランデュローサ、L.レペンスのような赤くなる有茎草の比率を上げています。また山水石にはウィローモスをしっかりと活着させ苔の絨毯のようにしていますが、そこに地肌剥き出しの流木が転がっている表現が面白いかなって思っています。

—— レイアウト表現としても新鮮な印象を受けました。

時間が経過して苔むした石と流され辿り着いたばかりの流木という時間差のある表現がこの作品の肝となる所です。この作品の中の流木もいつかはどこかに定着して苔むして周囲の風景に馴染んでくることがあるかもしれないんですけど、今この水景はまだその物語の途中というか、留まっていないう感じがこうした表現につながったのだと思います。今後も発展できる余地がありそうなので、今回は流木で表現しましたが、石でも同じような表現ができるかもしれません。私はけっこうレイアウト素材フェチなので、素材の表情を見せたいと思う所もあるんですよね。少し話が逸れるかもしれませんが、意外とレイアウト素材の表面



ルドウィジア・グランデュローサ、ルドウィジア・レペンスのような赤くなる有茎草の混栽を取り入れ、赤の比率を上げることで紅葉の様子を演出した。



の見せ方って考えさせられることが多いんです。自然に付着した藻類とかも完全にきれいにしてしまうよりは、薄っすらと付着していた方が自然に見えていいなって思うことがよくあるんです。また流木なんかは同じ流木を長く使っていると徐々に削れていくことがあります。そうした変化もいいと思うんです。同じ素材だとしても管理、維持の仕方などで表情が変わってきます。そうした変化もレイアウト感覚に取り入れていきたいですね。レイアウト素材への愛着みたいなものを最近気付かされることが多いです。

—— 今回の作品制作で一番楽しかったことは何でしょうか。

最初に言ったように流木の物語を表現しようというアイデアを思い付いたときですね。見



「ADA view」にて
レイアウト動画公開中



構図

2022年10月14日撮影



山水石に活着したウィローモスの絨毯と地肌剥き出しの流木が明暗のコントラストになり、時間差を感じる表現につながった。手前に敷いているグラベルサンドは日本的な雰囲気を出すために有効。川の中で角が取れた質感が水景のコンセプトとマッチしている。



MINI NATURE AQUARIUM #08

Mini NATURE AQUARIUM
MAINTENANCE GUIDE

DATA

撮影日 2024年10月22日
水槽 キューブガーデン W300×D180×H240 (mm)
照明 マグネットライト G スリム (1日8時間30分点灯)
ろ過 ストリームポンプ・ミニ
素材 ホーンウッドチップ
底床 アクアソイル・アマゾン Ver.2、バクター R
CO₂ CO₂システム74-DA、ベルグラス・ミニで3秒に1滴
添加剤 ミニNAリキッド
換水 1週間に1度 1/2
水質 水温25℃ pH:6.2 TH:50mg/L
その他 メタルカバー・ミニ、メタルベース・ミニ



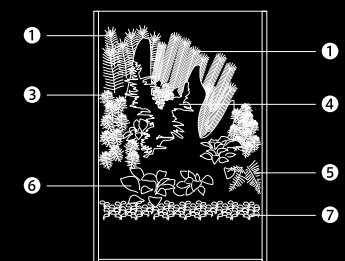
専用の液体栄養素 でミニ水景を楽しむ

秋の深まりを感じるころになると、水槽の水草たちは調子を取り戻し始める。外出先から帰宅し、水槽の明かりにホッとすることができるようになるのもこのころだ。外気温が下がるにつれ、水中で揺れる熱帯の水草たちのグリーンが色鮮やかに見え、暖色系の水草が恋しくなる。水草レイアウトは、インドアの趣味ではあるものの自然の移ろいに感化される一面を持っている。これは四季の変化を楽しむことができる日本人特有の感性と言えるのかもしれない。そんな色鮮やかな水草をミニ水槽で楽しむためには



1プッシュ0.5mLのミニ水槽専用のプッシュノズルが採用されている。

適切な栄養素添加が大切となるが、これが案外難しい。そのため専用に開発されたのがミニNAリキッドとなる。1リットルにつき1プッシュ (0.5mL) が規定量となるので、作例水槽では4プッシュ (2mL) を添加する。その栄養素の構成はチッ素、カリウム、微量元素からなり、光量とCO₂添加量が整っていれば、適量添加で美しい水草の生長が期待できる。ただし、セット初期のアンモニウム/アンモニアの発生がなくなるのを確認してから添加することが肝心である。また万一、藻類が発生するようであれば一旦添加を中止する。また栄養吸収の盛んな有茎草の多用は、藻類の発生を抑制する作用があるが、その分栄養素添加も必要となるので添加量の見極めは経験がものを言う。作例の状態では、ミニNAリキッドを規定量の1.5倍を添加している。



植物 ①ロタラ・ナンセンアン(BIO)※ ②ロタラ sp.ベトナム(BIO)※ ③ミリオフィラム sp. ガイアナドワーフ(BIO)※ ④スハイキーマス※ ⑤クリスマスモス※ ⑥アマビース・ナナフチ(BIO)※ ⑦グロッソスティグマ(BIO)※
生体 チェリーシュリンプ

※はADA生体製品ラインナップです。

CREATOR WORKS

Kota Iwahori

PALUDARIUM W600 x D300 x H450 (mm)

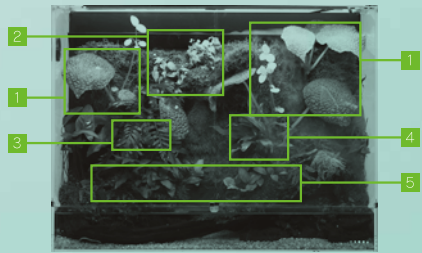


「アヌビアスの静寂」

このレイアウトはアヌビアスの故郷をイメージし、水を溜めたアクアテラリウムとして山水石とホーンウッドで凹型構図を組んだ。矢じり型のアヌビアス・グラキリスやスレンダーなアヌビアス・グラブラが熱帯雨林の水辺の雰囲気を出し、ボルビティスの葉がそれらをよりいっそう引き立てる。やはりアヌビアスとボルビティスの組み合わせには、アクアリストならではの自然感を覚える。水際の部分は暗くなり過ぎないように明るい葉色のアヌビアス・ジェイドでバランスを整えた。A.ジェイドは、改良品種の中でも特に花付きが良いので気に入っている。壁面は西アフリカ原産の大小2種のペゴニアでシンプルにまとめた。どちらも根茎性ペゴニアで佗び草マットとの相性がとても良く、霧吹きや古葉処理などのセット初期のケアさえ丁寧に行えばバーチカルにワイルドなペゴニアの姿を楽しむことができる。このレイアウトでも特徴的な黄花を次々に咲かせていた。

D A T A

撮影日	2024年9月20日
制作	岩堀 康太 (ADA SUIKEI CREATOR)
水槽	システムバルダ 600
照明	バルダライト 600 (1日8時間点灯)
底床	ジャングルソイル、ジャングルベース
給水	ミストフローボックスに2〜3週間に1度 高吸水スポンジで1週間に1度程度
排水	ミストフローで毎時20分間
湿度管理	サーキュレーションファン 40で毎時5分間
時間管理	パワーコード S-70



MAIN PLANTS

- 1 ペゴニア・ミクロスベルマ
- 2 ペゴニア・プリスマトカルバ
- 3 ボルビティス・ヒュディロットティ
- 4 アヌビアス・グラブラ
- 5 アヌビアス・ジェイド

New Style Indoor Green

Style
08

DOOAで提案するガラスケースで主に熱帯植物の育成を楽しむスタイルをさまざまな作例とともに紹介。

日々の生活の楽しみとして取り入れてみては。

DATA

CASE GLASS POT MARU 130

PLANT

エクメア・レクルバータ var.ベランシー

LIGHTING

マグネットライトG スリム 6段階中4〜5

SUBSTRATE

トロピカルリバーソイル、ジャングルベース

MATERIAL

山水石

硬質タイプの葉を付ける最小種級のエクメアで、乾燥状態を保ちつつ光を当てるとよい。条件がよいと株元と鋸歯が黒紫色に染まり美しい。作例では、岩場の割れ目に砂が堆積した所に生えている様子をイメージしている。



DATA

CASE GLASS POT MARU 130

PLANT

ネオレゲリア・ブクティッシマ イエロー

LIGHTING

マグネットライトG スリム 6段階中3〜4

MATERIAL

コルク

株元から葉先まで虎斑模様が入るネオレゲリアの人気美麗種。子株を出しにくいので、作例のようにケース栽培でじっくりと育てるのもよい。葉先が黄色くなる場合は、強光、乾燥などのストレス障害の可能性あり。



DATA

CASE GLASS POT MARU 130

PLANT

ネオレゲリア・ドゥングシアーナ

LIGHTING

マグネットライトG スリム 6段階中5〜6

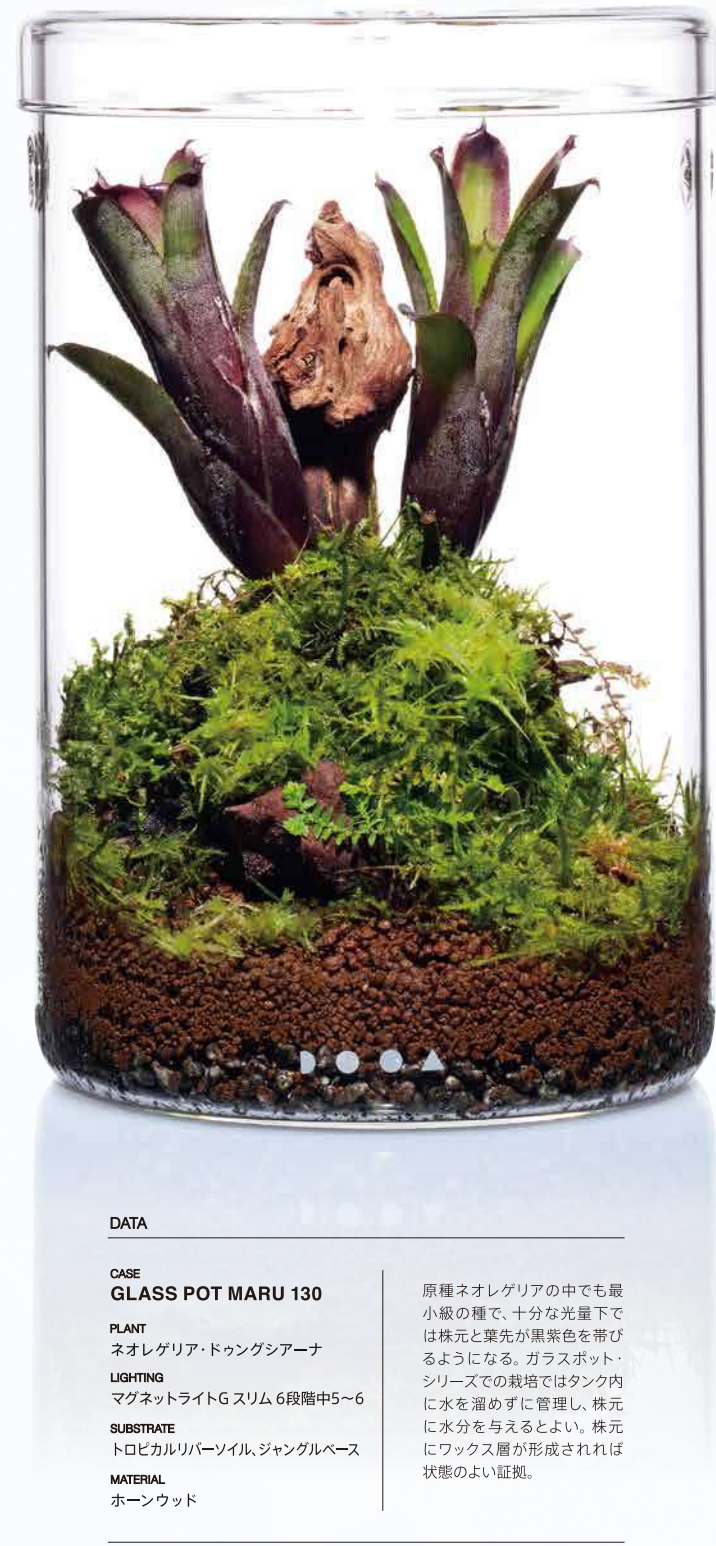
SUBSTRATE

トロピカルリバーソイル、ジャングルベース

MATERIAL

ホーンウッド

原種ネオレゲリアの中でも最小級の種で、十分な光量下では株元と葉先が黒紫色を帯びるようになる。ガラスポット・シリーズでの栽培ではタンク内に水を溜めずに管理し、株元に水分を与えるとよい。株元にワックス層が形成されれば状態のよい証拠。



KUMU MAKING GUIDE

#08

「こだわりのレイアウトを楽しむための化粧素材『KUMU』。ここでは、それらを用いたレイアウトのつくり方や実用的なテクニックなどを、順を追ってわかりやすく解説します。」

HOW TO MAKE

01



KUMU
フラットリバーグラベルS

フラットリバーグラベルSを入れる。



02



KUMU
リュウオウストーン

リュウオウストーンで石群をつくり、積み重ねるようにレイアウトする。



03



石は接着し組み、所々にできた穴には水苔を詰める。

04



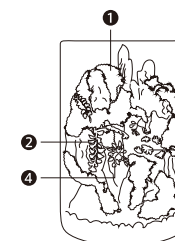
全体のバランスを見ながら苔類を植栽。今回は爽やかな清流にある岩場をイメージにしたいのでBIOプレミアムモスとウチワゴケを植栽した。

05



最後に水苔を詰めた穴にシダ植物を植栽。

06



DATA
■ガラスボット MARU130
■KUMUリュウオウストーン、KUMUフラットリバーグラベルS
■植物
①プレミアムモス (BIO) ※ ②サイゴク
ホングウシダ ③ウチワゴケ ④アジア
ンタム
※はADA生体製品ラインナップです。

1カ月後、清流の涼しさを感じるレイアウトが完成した。底に水を1cm貯めて管理すると湿度で苔類のみずみずしさをキープしながら美しく管理することができる。

IAPLC CREATOR'S FILE #18 Wong Soon Meng

世界トップレベルの水草レイアウトコンテストである「IAPLC」。このクリエイターズファイルでは、その上位入賞者にインタビューを行い、上達の秘訣や水草レイアウトに対するこだわりを紹介いたします。

水槽の中で自然を表現することは 私にインスピレーションと モチベーションを与えてくれる

Q 水草レイアウトを始めたきっかけは何ですか？

幼い頃、空の容器や小さなプラスチックで魚の飼育を始めました。大きな水槽を使うようになると、装飾も行うようになりました。水草に出会い自分が魚よりも水草に興味があることに気づいてこの趣味を始めました。アクアリウム誌で美しい水草レイアウトの写真を見て、さらに興味をそそられました。

Q 水草レイアウトのどのようなところに魅力を感じますか？

水槽という限られた空間で自然を表現できるということは、水草レイアウトの定義を大きく拡大させ、私にインスピレーションとモチベーションを与えてくれます。

Q 今回のレイアウトのテーマやモチーフ、アイデアはどこから得ましたか？

小さな島国のシンガポールの限られた自然の中や旅行中、散歩やランニングをしながら自然を観察するのが好きです。また、本や雑誌を読んだり、自然に関するドキュメンタリーや映画、テレビ番組を観てインスピレーションを得ています。

Q レイアウトをする上でこだわりのグッズはありますか？

最近、排水セル(雨水を排水するために人工芝生の下で使用されるプラスチックのシートのようなもの)を使ってみました。水を流しながらレイアウトの高さを上げ、植物を固定するにも非常に良いと思います。



構図制作時の様子。流木は一部釣り糸で固定し、背景には水草を植栽できるよう排水セルを設置した。



Canopy Serenity Aquarium Size W1,200×D500×H500(mm)

水草：ニューラージパールグラス/キューバパールグラス/コブラグラス/クリプトコリネ・パルバ/アマビマス sp./ボルビティス・ヒュデロツティ/

ボルビティス・ベビーリーフ/ミクロソラム・プテロプス/プセファランドラ sp./クレビドマネス cf. マラバリカム/ホウオウゴケ/ベルベットモス/プレミアムモス/フレイムモス/ウィーピングモス/スキスマトグロツティス・プリエトイ 魚種：シナヌマエビ/オトシンクルス・アフィニス

Q レイアウトを制作していく過程で、苦労した点や工夫した点はありますか？

この水景に使用した流木は、最初は沈めても浮いてきました。釣り糸で数箇所を結び、固定しています。また、背景に十分な高さのスペースがなかったので、排水セルを利用し背景に水草を追加できる構造にしました。

Q 水草や魚種の選定する上でのポイントについて教えてください。

思い描く水景のデザインとテーマに沿って、葉の形や色、生長の仕方が適切な水草をざっくり選び、そこから水景に最も合う水草を厳選していきます。

Q レイアウト制作でいつも心がけていることがありますか？

水草や生物のための水質を維持するため、メンテナンスのしやすさは大切です。多くのアクアスケーパーが実践するように、水槽にしっかり水流があり、構図素材と水槽ガラスの間のクリーニングができるスペース

が十分であることを確認するようにします。

Q コンテスト入賞の秘訣はありますか？

残念ながら秘訣はありません。IAPLC2023で44位に選ばれたことはとてもラッキーでした。今回でまだ3回目の参加ですが、これまでの成績はひどいものでした。それなので、言えることといえば、気の利く友人や家族のサポートのお陰です。この場を借りて、妻のサポートや理解に感謝します。シンガポールのアクアスケーピングクラブの友人たちの芸術的理解や水草の選択におけるアドバイスも忘れていません。

Q SNSなどでIAPLCに関するどのような投稿をしていますか？

画面を見ることを制限しているので、SNSの投稿はあまりしていません。しかしながら、自分のIAPLCの結果は毎年公開しています。良いものも悪いものも関係なく、自分のプロセスの記録として役立てています。

Q アクアリウムクラブに所属している場合は、その活動内容をお聞かせください。

2022年、アクアスケーピングのレベルアップを目的に数人で「シンガポール・アクアスケーピングクラブ」を結成しました。我々は、自分たちの技術と知識を広め、より大きなアクアスケープコミュニティに広げることを目指しています。設立されたばかりの「シンガポール・アクアスケーピングクラブ」の私たちの多くは、フルタイムでの活動と参加を両立させています。私たちはまだ定期的な活動を確立する過程にありますが、私たちの交流は主に、個々の水景制作やアイデアの共有と議論を中心に展開しています。最近、私たちは新設する地元のアクアリウムショップからの依頼で展示水槽2本を制作しました。

Q 世界中の水草愛好家の皆さんにメッセージをお願いします。

この趣味をなぜ始めたのか思い出し、やり続けてください。



「シンガポール・アクアスケーピングクラブ」の仲間たち。



水草レイアウトを眺めて楽しむ息子。

PROFILE

ウオン・スーン・メン

黄 順明 Wong Soon Meng

年齢 / 44歳
国名 / シンガポール
職業 / Sport Singaporeの
インフラ開発マネージャー
アクアリウム歴 / 20年
趣味 / ランニング、水泳、
スキューバダイビング、
フリーダイビング、レゴ
過去の受賞歴 / なし

創造の人・天野 尚の軌跡。 文／阿部 正敏

超大判フィルムの世界

第6回 ADA本社・集合写真 (2006年撮影) フジクローム・プロビア (RDP II) 8×20 in

※このページではカラーリバーサルフィルムの色をできるだけ忠実に再現し、
実物の約70%の大きさに縮小した画像を掲載しています。

天野 尚と愛用の大判カメラ
1 8×20 in 2 8×10 in
3 11×14 in
4 4×5 in 5 5×7 in



超大判フィルムで撮る集合写真

1994年から8×20 inと11×14 inの超大判フィルムによる水景写真と生態風景写真の撮影に取り組んできた天野 尚は、2006年に8×20 inの超大判フィルムでこんな集合写真を撮影している。フィルム時代の集合写真と言えば、写真館などのプロカメラマンによる撮影では中判カメラの6×9cm判が定番で、最終的に写真プリント（紙焼き）を

前提としているためネガフィルムで撮影するのが一般的だった。集合写真では写っている人の顔がしっかりと判別できる描写力が重要であり、写る人の人数が多くなるほどフィルムのサイズは大きい方が有利であると言える。しかしながら、大判カメラは描写力には優れているものの撮影の準備や操作が煩雑になるため、描写力と利便性

のバランスから6×9cm判の中判カメラが集合写真の定番となっていた背景がある。8×20 inの超大判フィルム、しかもカラーリバーサルフィルムというのは、天野にしかできない特殊な撮影と言えるだろう。このときは200人規模の特に大人数での集合写真であり、天野には特別なアイデアもあったため、この選択肢となったのである。



2006年のネイチャーアクアリウム・パーティー

世界水草レイアウトコンテスト（現在の正式名称はIAPLC）と表裏一体のイベントと言えるネイチャーアクアリウム・パーティーは、2001年から2019年までコンテストの結果発表後に毎年開催されてきた。開催地は年によって東京か新潟かの違いがあるが、コンテストの表彰式と世界の水草レイアウト愛好家の交流会という内容は

共通している。2006年のネイチャーアクアリウム・パーティーは9月2日、3日の日程で新潟で開催され、2日目には200人近い参加者がADA本社のネイチャーアクアリウム・ギャラリーを訪れた。天野の特別なアイデアとは、この参加者全員と運営しているADAスタッフを8×20 inの超大判フィルムで撮影して記念ポスターを制作するという

ものであった。しかし、総勢で200人以上の大人数となるため、当初想定した本社2階のテラスだけでは全員が入りきらない。そこでADA本社の前を流れる川沿いの土手を借り、半数はそこに並んでもらうことになった。当日は好天にも恵まれ、参加者の協力とADAスタッフの尽力もあって天野の狙い通りの集合写真を撮影することができた。

地図で見るとよくわかるが、ADA本社は川沿いの半月状の土地に建っている。このコンクリート打ちっ放しの外壁が特徴的な建物は川のカーブに沿うように建造されており、そこには周囲の景観を乱さずに建物と環境を融合させたいという天野の思いが反映されている。ちなみに、この建物を設計したのは天野の実兄である天野一博氏で、やはり感性には兄弟で通じるものがあるようだ。
フジクローム・プロビア (RVP) 4×5 in 2000年撮影



水草道!

至高の食事

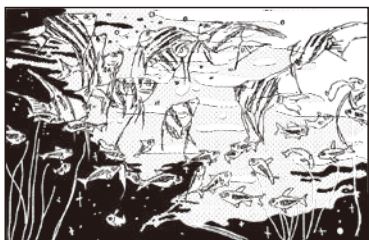
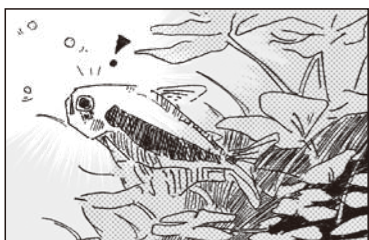


Illustration / Hayase Kato

STAFF CREDIT

Publisher
天野 しのぶ

Art Direction
NATURE AD DESIGN

Design
丸山 悟司／市川 亮／高遠 将史
板橋 広夢／加藤 颯世

Editor
岩堀 康太／松本 隆介

Supervisor
大岩 剛

Photo Supervisor
阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
https://www.adana.co.jp

Printed by
株式会社山田写真製版所



NEXT AQUA JOURNAL

JAN. 2025 vol.351
2024年12月10日 (火) 発売予定



アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。
AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2024 Printed in JAPAN

PLANTS PORTRAIT

Photo & Text / Ryusuke Matsumoto



Masdevallia pelecanceps

先日、旧友から同窓会の写真が送られてきた。あいにく自分は出席できなかったのだが、学生時代は目立たなかった友人が輝いて写真に収まっていた。ふと、うれしさが込み上げてきた。この地味なマステバリアは、夏場に調子を崩して植え替えを行ったが、秋になると花芽が上がり開花に至った。南米の高地に分布しているため、育成には温度調節されたバルダリウムを用意する必要があるが、その小さな開花は、それまでの育成労力を知る栽培者には一際美しく輝いて見えるものである。

日々植物の育成に勤しむ松本 隆介の視点で、毎月ひとつ植物を紹介します。



天野 尚とのアマゾン撮影取材は、今となってはかけがえない思い出であり、貴重な体験だった。アマゾンでは20日間ほどの船上生活を送ったのだが、一番の楽しみはやはり食事だ。開高健の『オーバ』で夢見たヒラーニャ・ブレタ(黒)も哀れ素揚げに。ただ、ライムを絞って盛り付け、ビールを流し込む幸福「1日ビール3缶まで」と厳命が下ったこともありました。

アマゾン回顧録

Text / Hayashi Onna

INFORMATION

ADA NATURE AQUARIUM 便利に使えるレイアウト作業シート SUIKEI SHEET

「SUIKEIシート」は内側に防汚コーティングを施した防水性の高い丈夫なポリエステル製のシートです。石や流木などのレイアウト素材を扱う際に下に敷けば、床を傷付けず作業が可能です。さらに、四隅のボタンを留めトレイ状にすることで水や土がこぼれにくくなり、レイアウト制作からメンテナンスまで、さまざまな作業シーンに対応します。



価格：¥4,180 (税込)
外寸：W750×D750 (mm)
※広げた際のサイズです。



世界の最新水草レイアウトがこの一冊に。

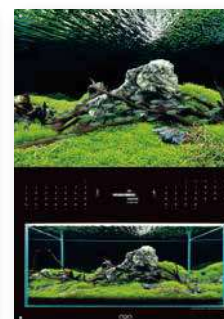
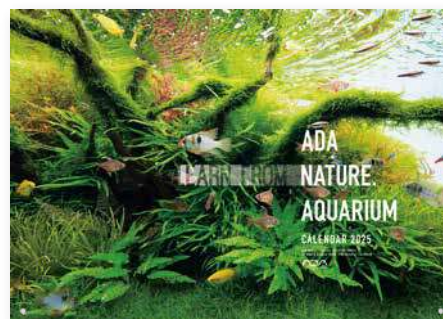
IAPLC 2024 作品集 11月末より発売予定

今年は79の国と地域から1,450作品の応募がありました。今回の作品集には、世界ランキング1位から1,415位までを掲載しています。コンテストの総評や水景解説、審査員の評価コメントなど、傾向の分析や来年に向けた作品づくりの参考となる記事も充実していますので、ぜひ手に取ってご覧ください。

価格：¥2,300 (税込) フルカラー：128ページ
サイズ：W220×H297 (mm) モノクロ：32ページ

※お近くのADA販売特約店で求めください。

NATURE AQUARIUM CALENDAR 2025 ネイチャーアクアリウム・カレンダー 2025



今年のネイチャーアクアリウムカレンダーは、縦開き吊り下げ型カレンダーとなっており、ADA水景クリエイターが制作した水景6点、AJ未発表の水景が掲載されています。ADAの最新ネイチャーアクアリウムを高精細印刷でお楽しみください。

好評発売中
価格：¥1,500 (税込)

横420×縦594 (mm) (見開き)
※専用封筒入り。
※表紙+7見開き (2カ月ずつのデザインです)。
※世界共通のため祝日表記はありません。

ADA LIGHTING SYSTEM

AQUASKY RGB II

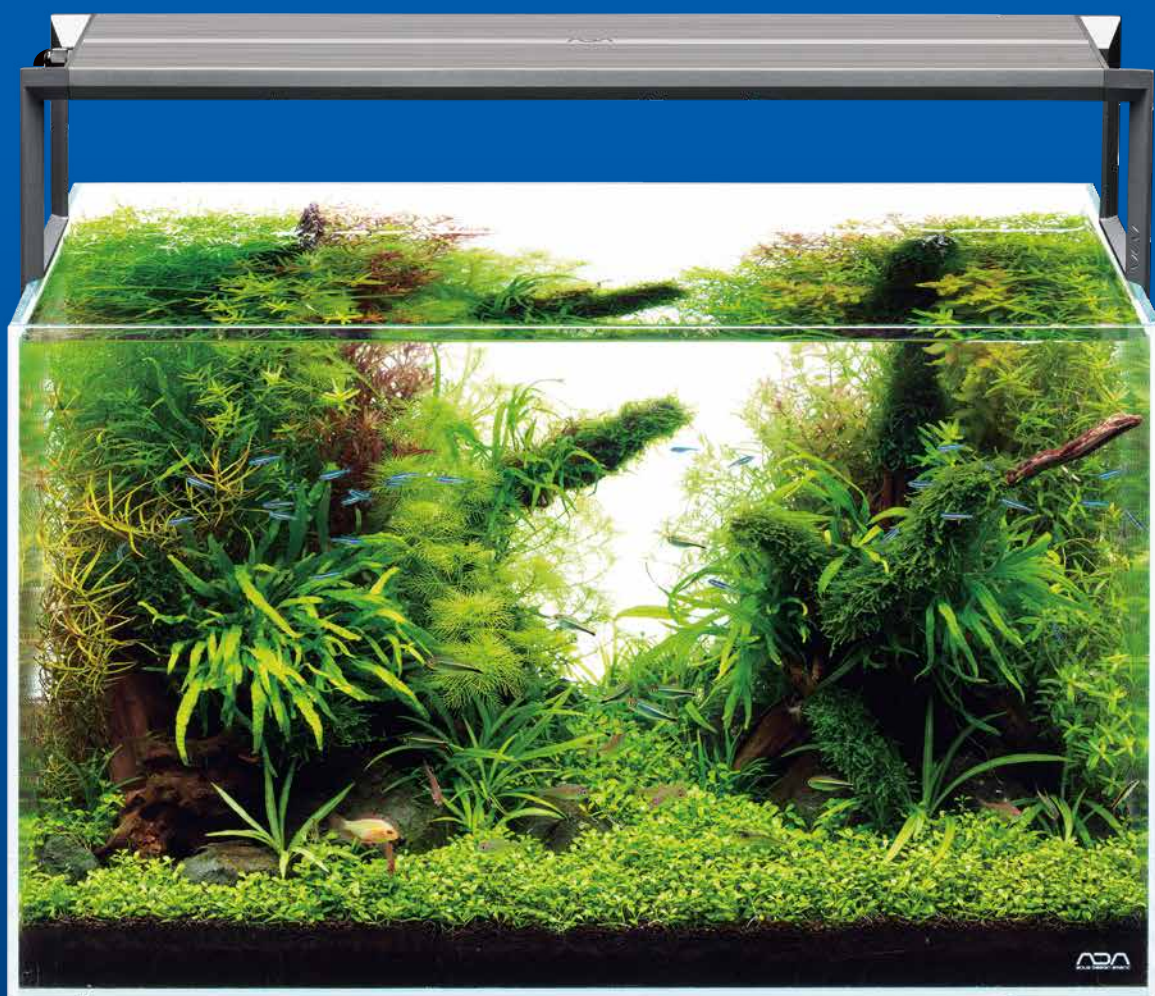
ADA NATURE AQUARIUM GOODS

創造と可能性のライティングシステム

水草を健康に育て、美しい水景を創造するネイチャーアクアリウムで欠かせないのが、水槽を明るく照らすライティングシステムです。1994年、「グリーングロウ/604」から始まったADAの600mm水槽用ライティングシステムは、現在、スマート化した「アクアスカイRGB II」へと進化しています。専用アプリで光色や光量、点灯時間を自在にコントロールすることができ、水景創造の可能性がさらに広がりました。

※専用アプリ「ADA CONTROLLER」は日本国内開発です。

製品の購入前に、アプリのインターフェースと各種コントロール機能が確認できるデモモードを搭載しています。



ADA
aqua design amano